

中等の「礎」

第 21 号に引き続き、母校の「黎明期」「移行期」を支えていただいた方にスポットライトを当てたいと思います。今回は、2012 年から 7 年間、中等教育学校の副校長を務められた勝山先生にご寄稿いただきました。

No.02 勝山 元照さん [元 副校長]

黎明期によせてー学校文化（価値観）の創造ー

神戸大学附属中等教育学校（神大附）には、2012 年の後期課程創設時に着任しました。神戸大学の附属学校園再編に関する外部委員を務めていたことが縁で、中等教育学校創りの経験を請われ、奈良女子大附属から赴任しました。

再編構想は、国立大附属をめぐる当時の状況下での野上学長の大英断でしたが、現場は「昏迷」に陥りました。明石・住吉両中は、伝統を基に「教科でできるキャリア教育」「生徒と創る協同学習」など独自の教育を展開している時に、唐突に方向転換を迫られたわけで、現場にとっては不条理なことでした。また、統合後も明石校舎出身者が感じた「肩身の狭さ」問題をはじめ、さまざまな相克と課題が次々に生まれました。なかでも、中学校を母体にした高校段階の創設は、全国的にも経験のない「難題」でした。

中等教育は、ルソーのいう「第二の誕生」期にはほぼ該当しますが、中学生と高校生では「自立」の程度にかなりの違いがあります。中学出身教員は生徒に対して、なにごとにも丁寧に指示を出す傾向があり、高校出身教員は大雑把で生徒に任せる傾向が顕著でした。共に生徒固有の発達段階に適正に対応しているのですが、「ゴール」のイメージが異なっていました。前川附属学校部係長や安岡・高木優・中垣先生ら先遣教員の奮闘はありましたが、後期課程設立年も高校経験者は少数派で、生徒の「自治」をめぐる合意形成は難航しました。

高校段階を創造するという神大附黎明期の「難題」解決に、最も大きな役割を果たしたのは、1 回生をはじめとする生徒自身だったと、私は考えています。後期課程発足 1 年目は、文化祭などの諸行事等で、中学的制約が大きかったのですが、先輩というモデルがないなかで、多く生徒達がこの「制約」を次第に乗り越えていきました。

生徒の「自治」的活動の中で、私が一番印象に残っているのは、1 回生が取り組んだ「旗振り通信」です。神戸大学の高月先生が紹介された、「江戸時代、大坂の米相場を地方に伝えるのに山に登って旗振って合図した営み」のことです。米相場の情報が各旗振り台をつなぐことで、新幹線並みの速度で伝わり、姫路や岡山の米相場にも影響を与えたそうです。

1 回生が頑張って、「旗振り通信」の再現を企画・実行しました。大阪環状線並みのスピードでしたが





旗振り通信

見事に伝わりました。陸上部が飛脚になって通信に対抗しましたが及びませんでした。旗を振らせくれる施設なども、多くを生徒が交渉して許可を得ました。

こうした取り組みは、醒めた目でみると「無駄」なことに映りますが、自発的な学び、校風の成立という視点で考えると意義深きことでした。取り組み自体は伝統行事にはなりませんでした。神大附の「自治」「協同」「創造」の精神を生徒自身が体現した典型例と考えます。

また、平松先生や水嶋先生ら学年の先生方が、陰ながらサポートされましたが、サポートに徹したことが「自治」の創造に貢献したと思います。

船寄先生らが構想された教育目標「グローバルキャリア人」の育成も、言葉だけではすぐに揮発してしまうのですが、「内実」を創ったのはやはり黎明期の生徒達でした。

私は、副校長としての7年間、淋しいことに生徒と直接的にかかわることはあまりありませんでした。救いだったのは、研究開発学校事業に携われたことです。

「歴史総合（基礎）」「地理総合（基礎）」の研究開発（2013～2019年度）では、4回生の4年の授業と卒業研究を担当しました。研究開発主任は高木優先生。「歴史総合」の実践は奥村暁先生が中心で、次々とアイデアを出して果敢に挑戦し、学習指導要領の改訂に貢献しました。卒業研究（SGH 課題研究）では、「台湾の修身教科書」「米騒動とマスコミ」「独仏教科書」「ユダヤ難民と神戸」等の優れた研究と付き合うことができ、幸せな時間でした。なお、神大附での取り組みは、拙稿「新しい世界史教育として「歴史総合」を創る」（岩波講座『世界歴史』第1巻）に掲載されています。

SGH（スーパーグローバルハイスクール）指定では、岩見先生（SGH 主任）の率先垂範のもと、シアトル、高雄、ハノイ、ケンブリッジの各校と協定を結びましたが、交流はどこでも生徒が大活躍でした。二つの研究開発事業は、生徒の活躍を生み出すことで、グローバルキャリア人の内実の創造に大きく貢献しました。

現在、高木校長先生のもと、神大附はSSH 指定校として全国の注目を集めていますが、創設期の価値観が継承・発展されていることをうれしく思います。私は、近隣の親和中学校・女子高等学校で、今も副校長として勤めていますが、神大附の将来に向けてのエールを日々送っています。



ハノイ外大附属との交流協定締結式

*紙幅の関係上「敬称」「職名」などを省略しています。

寄付のお願い

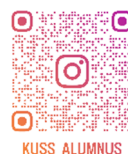
母校の教育活動の支援のため、寄付へのご協力よろしくお願いします。

附属学校部 HP : <http://www.schools.kobe-u.ac.jp/donations.html>



SNS で情報発信中！

Instagram、Xで同窓会関係の情報を発信しています！フォローお願いします



KUSS_ALUMNUS



@kuss_alumnus

小川 千遥さん [中等 10 回生]

はじめまして、中等 10 回生卒業生の小川千遥です。朝晩に秋の訪れを感じる頃になりましたが、中等卒業生の皆様、教職員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

この度は陽菊への寄稿の機会をいただき、非常に光栄に感じております。今回は私事になりますが、私が今送っている大学生活のことや、その中で最近感じていることについてお話しできればと思います。

私は現在、京都大学工学部建築学科の 3 回生として、日々授業やサークルでの活動に励んでいます。進学前に想像していた以上にあっという間に時間が過ぎ、学業以外にも、サークルや色々な活動に足を踏み入れながら、刺激的な毎日を過ごしています。1 回生から始まった京都での一人暮らしですが、この街での生活には今も変わらず魅力を感じ続けています。家から少し歩けば鴨川の河原があり、友達と集まってお花見をしたり、ギターを弾いたり。すぐそばには京都御苑などの歴史的な空間が広がっており、豊かな風景に囲まれた日常に、3 回生になってもいまだに新鮮な気持ちにさせられます。



Chiharu Ogawa

中等在学時は吹奏楽部に所属、TFPT の広報局長も務めた。大学では建築を専攻し、軽音サークルの活動を含め楽しいキャンパスライフを謳歌中。



大学の製図室

そんな私の大学生活の中でも、建築学生らしい日々を送っているなど感じるのが、課題の提出前などに製図室に同級生と集まって作業をする時間です。建築学科では一人ずつ製図台が与えられ、それぞれの作業を進めながら、図面を描いたり模型を作ったりしています。単に黙々と作業するだけでなく、「どうすればより面白い空間になるか」などアイデアを交わしあう時間が、私はとても好きです。一人で煮詰まっているときに新しい視点を友達からもらったり、ひたすら案をスケッチブックに描いたり。夜中の製図室で、同級生と熱量を共有しながらひたすら創作をする時間は、大学生活ならではのとても刺激的でかけがえのない経験だと感じています。

大学では授業のほかに、林業の盛んな岐阜県の地域で木材の加工や知識を学び、地域交流を行う建築学生の団体にも所属しています。自分たちで設計を行い、木材をひとつずつ加工して実際に建築物を竣工させることや、地元の方々にその技術を教えていただく活動です。古民家の改修を行ったり、依頼を受けて地域のこどもたちの遊び場を作ったりと幅広く活動を行っています。なかでも私は地域の方との交流や広報活動に力を入れており、地域の市場へ出店したりイベントを開催したりして、住む人々と直接関わることに大きなやりがいを感じています。中等在学時、KP や統計の課外活動で漠然とイメージしていた「まちづくり」や「地域おこし」に、少しずつですが自分の手で携われている感覚がとても面白いです。普段の課題設計では、どうしても頭の中や画面上で完結してしまいがちですが、実際に現実に形となり、それを使う地域の方々の声を直接聴けることは、視野がぐっと広がるような、とても大切で豊かな経験になっています。

このような刺激的な毎日ですが、最近は、劇的な変化よりも小さな出来事や少しずつの経験を大切にしようと思えるようになってきました。以前の私は、何かひとつの環境の変化や出会いによって自分に劇的な変化が起きるのではないかと期待している部分がありました。しかし実際には、そう簡単には自分は変わるものではなく、よくも悪くもいつもの自分のまま日々は過ぎていきます。けれど、中等での6年間を振り返ると、確かに自分の中に大きな変化がありました。それはなにかの瞬間に劇的に変わったというよりは、日々の小さな経験の積み重ねがあったからこそだと感じています。中等在学時、私は兎原祭実行委員や委員会、部活動や統計の課外活動など、やりすぎなくらい様々なことに挑戦させていただきました。当時はただ目の前のことに夢中でしたが、大学生活を送る中で、あの時の経験が自分のためになっていた、あの経験が今の自分の進路や軸に影響を与えているなど実感する瞬間が何度もあります。中等在学時、幅広く挑戦できる環境があったこと、そしてそれを温かく支えてくれた友人や先生方、家族には改めて感謝の気持ちでいっぱいです。これからも目の前の小さな経験や出会いをひとつひとつ大切にしながら、大学での学びや活動を深めていきたいと思います。



建築学生の団体 活動の様子

改めて、卒業後もこのような形で中等の卒業生の皆様と関わりを持てていることを大変嬉しく思っております。これからも何らかの形で母校や卒業生の皆様に貢献し、関わり続けていくことができれば幸いです。最後になりますが、拙い文章に最後までお付き合いいただき、本当にありがとうございました。皆様の益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

中等生の活躍!!

(一部抜粋)
2026 年 9 月 ver.

■ ASTA

日本天文学オリンピック
化学グランプリ 2026
物理チャレンジ 2026

銀賞
銀賞
銅賞
日本代表候補最終選抜招集

■ ESS 部

高校生英語パラメンタリーディベート連盟新緑杯
西日本大会
PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会

Fifth Place ほか
ベストディベーター賞

■ 男子テニス部

兵庫県高等学校テニス新人大会 ダブルス 第3位

■ 陸上競技部

兵庫県中学校総合体育大会 陸上競技大会 第3位

■ KP

Intertwined Science for Sustainability
高校生・高専生科学ポスター発表会

優秀賞

■ コーラス部

NHK 全国学校音楽コンクール

兵庫県大会 中学校の部
兵庫県大会 高等学校の部
近畿ブロックコンクール 中学校の部

金賞
銀賞
銅賞

兵庫県合唱コンクール 中学生部門同声合唱の部

兵庫県合唱コンクール 高等学校部門Bグループ

関西合唱コンクール 中学生部門同声合唱の部

関西合唱コンクール 高等学校部門Bグループ

金賞
金賞
金賞

【編集後記】

夏休みは熊本で桑田佳祐さんのライブツアーに参戦する予定でしたが、地震により延期に。今夏は台風・豪雨による災害が日本各地で発生しました。被害にあわれた方々にお見舞い申し上げたいと思います。2026 年も残り 3 カ月、一日一日を大切に過ごしていきたいですね (1 回生 小黑)。

(次号は 2026 年 12 月 31 日発行予定です)